

令和7年度 第1回 志摩市総合教育会議 議事録（概要）

- 1 日 時 令和7年7月18日（金） 16：00～16：45
- 2 場 所 志摩市役所5階 庁議室
- 3 出席者 橋爪政吉市長、舟戸宏一教育長、柴原千峰教育長職務代理者、
坂中小百合教育委員、茶呑潤造教育委員、東川泰仁教育委員

（事務局） 堀尾政策推進部長、坂井総合政策課長、米奥係長、大田主査
鳥羽教育部長、出口教育委員会事務局参事、前田教育総務課長、金光学
校教育課長、村井学校教育課副参事、前田生涯学習スポーツ課長、阿部
学校給食センター長、里中総合教育センター課長補佐
- 4 議 題 志摩市教育大綱の策定検討

事務局	定刻となりましたので、ただ今から令和7年度第1回総合教育会議を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。本日の司会を務めます、総合政策課課長の坂井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 まず初めに、令和6年度の総合教育会議から委員の交代がございましたので、ご紹介させていただきます。
教育委員	【新たに就任された委員より、自己紹介】
事務局	それでは会議に先立ちまして、橋爪市長よりご挨拶を申し上げます。
市長	皆さんこんにちは。本日は志摩市総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。 日頃から志摩市、とりわけ教育行政に関して、委員の皆さんにはお力添えをいただいていること、この場をお借りしてお礼申し上げます。 今回の教育会議においては、志摩市教育大綱の策定について取り上げます。この教育大綱は、志摩市の教育における総合的な基本方針を示すものです。現在の教育大綱は令和7年度までを対象としていますが、その間にも情報教育や国際教育など、こどもたちを取り巻く環境には様々な変化が起きていると感じています。

	市長部局の職員にも話しているのですが、行政として社会の変化にどう対応していくか、どう食らいついていくかではなく、市民の皆さんに市民サービスをしっかりと提供するためには、社会の変化や社会の動きを我々がしっかりと捉えながら、先頭に立って、様々な行政サービスを提供していくことが非常に重要です。 まさに教育の分野においても、非常に変化していると感じています。その中で、第3期の教育大綱策定に向けて、現在の情勢を踏まえた内容で作成していきたいと考えていますので、ぜひ委員の皆さんにはご意見などをいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。
事務局	【資料確認】 本日の会議は、志摩市総合教育会議設置要綱第6条の規定により公開で開催するとともに、議事録は、後日、市のホームページにて公開させていただきます。 続きまして、今会議の議長になりますが、同設置要綱の第4条第3項の規定により、橋爪市長に議長をお願いいたします。
市長	よろしくお願いいたします。 それでは、お手元の事項書に沿って議事を進めます。まず議題の「教育大綱〔第3期〕の策定検討」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	【資料に基づき説明】
市長	それでは、この事項について、委員の皆さんからご意見がありましたら、ご発言いただければと思います。よろしくお願いいたします。
教育委員	丁寧な説明ありがとうございました。「未来を創る人づくり」というのを、大綱で目指すところとするのは分かるのですが、「しまらぶ」からイメージされることは人それぞれだと思います。「しまらぶ」に込められた想いや、どのように受け止めているかというところを聞かせていただきたいと思います。
事務局	「しまらぶ」は、志摩市が誇る豊かな自然や、歴史、伝統文化を学んでいただくとともに、生まれ育った志摩に対する深い愛着と誇りを育んでいただきたいという想いが込められています。ただ単に地元が好きと

	いうだけでなく、地域の課題などを自分事としても捉えていただき、積極的に地域との関わりを持っていただくことで、市民一人ひとりが、これからの志摩のより良い未来に向かって、未来を創造していくという、主体的で未来志向的な郷土愛というところも含んでいるというものとして考えております。
教育委員	「地域を誇り…」という、3番目の文言に当てはまると思うのですが、例えば「あなたの思う“しまらぶ”とは何ですか」というところを、もっと広く皆さんから意見を伺うと、もっといろいろな「しまらぶ」が出てくると思います。
事務局	ありがとうございます。皆さん誰もが、その心をお持ちだとは思いますが、一人ひとりが違うと思いますので、そういった中で、市民一人ひとりが思う志摩が好きなところ、「しまらぶ」というところを考えてもらうようなきっかけづくりを、何か仕掛けられたらと思います。ご意見ありがとうございます。
教育委員	「しまらぶ」の話で、地域を好きになるというところは共通した認識になると思います。そこからいろいろなことが派生すると思うのです。二十歳の集いなどで出てくるのが「志摩を好きになること」＝「定住」ということなのか、ということがあって、もちろん志摩に住み続けてくれたらそれは1番いいのですが、どこに行っても志摩を誇りに思っているこどもたち、大人であってもいいのですが、そういったものも含めた「志摩を好き」という想いが、どこの地域に行っても志摩のことを自慢できるし、その地域を大事にする。そのような人材というイメージも有りかとは思いますが、決して志摩だけが良かったらいいというような捉えではないかな、ということも思いますので、よろしく願いしたいです。
市長	まさにおっしゃる通りだと思いますので、その意識も持っていきたいと思います。ありがとうございます。
教育委員	よろしいでしょうか。意見なのですが、この大綱を見せていただく前までは、市民にとってインパクトのある、例えば「ICT」など、そのようなものが全面に出されるのかな、と予想をしながらこの大綱を見させていただきました。しかし、実際この大綱を見せてもらって安心しました。

	というのも、基本計画の1番が「誰もが大切にされる教育」というのを打ち出していただいていることがありがたいと感じました。普段から先生方は、とにかく今も昔もこどもに寄り添ったきめ細やかな教育を実践して努力しています。現在でも。そういうことをしっかりと認めていただいた上で、これが1番の柱かな、ということで、あげていただいていることはありがたいと感じました。また、前回の教育大綱を見させていただくと、難しいというか、字面も多くて、なかなか分かりにくいというのがあったのですが、今回見せていただくと、簡単で明瞭にまとめていただいている。読みやすい、わかりやすいと感じました。
事務局	今、総合計画をまさに作っているところで、まずは市民の皆さんに見ていただかなければいけない。どうしても行政目線で作ってしまうところがあったのですが、市民目線の、読んでもらう方の目線で作ることが必要だと、市長も常日頃からおっしゃっています。総合計画もそういった視点で作っていますし、この教育大綱についてもその視点を大事にまず主体をおいて、読んでいただけるような大綱にしていきたいという思いで作っております。
教育委員	非常にわかりやすいし、非常によくまとまっているなと私は思っております。1番「誰もが大切にされる教育」、2番「一人ひとりの可能性を伸ばす教育」については、学校側からの教育方針と考えていいと思うのですが、3つ目は社会教育の立場からということですね。私は頑固なのでお恥ずかしいのですが、こどもの教育だからといって「夢は大きいほうがいいよ」とか「希望は大きく持った方がいいよ」とか「世界を股にかけて歩け」とか、そういうふうに言うてしまうのですが、ちょっと待てよ、と。これは志摩市の立場でものを考えないといけない。志摩市の立場で考えると、今人口がどんどん減っています。特に出生率が下がっているんで、将来志摩はいったいどうなるのだろうか、心配されます。とすれば、その少数のこどもたちが地域に対して十分愛着があって、地域を誇ってこそ、どこに居ても志摩で生きていきたいなと思えるような、そういうこどもに育っていけば、将来戻ってきてくれて志摩のちかになります。ですので、地域を好きになるこどもを育てないといけない。そのためには、2つくらい言えると思うのですが、1つは自然に親しむというか、自然の中でたくさん遊んでたくさん思い出を作ることによって、志摩に愛着ができてくると思うのです。最近はなかなかそういうことをさせるのも難しい時代ではあるのですが、なるべく志摩市に愛

	着を持たせようと思ったら、私は、自然と接するのが一番かなと思うのと、もう1つは地域の一員だという自覚を持ってもらいたい。それはやはり「祭り」なのです。渡鹿野島にも「天王祭」という祭りがあって、今年はやめました。こどもがいないからなのです。もちろん人手が足りないということがあるのですが、こどもがいないことが大きい。こどもがいないのに祭りをやっても後に継ぐものがないのだから、力が出ないのです。こどもたちが祭りと接する。または、祭りの一翼を担うことによって、その祭りが自分の体に染み込むので、その地域に対して愛着ができ、また自らもこの祭りを守っていきたいなと思えるようになります。そういった意味でも、地域の祭りの継承に力を注いでもらいたいと思います。 3番目の「地域への愛着と誇りを育む」ということで、そのように謳っているのがいいです。今、先ほど言った細かいことは「教育推進計画」で、細かく書き上げればいいと思うのですが、そのようなことで地域に誇りの持てるこどもたちを育てていくということが命題だと思っています。そして、最終的には「未来をつくる人材」をめざすということに集約されると思います。
事務局	ありがとうございます。おっしゃる通りで、学校教育があり、地域とのこどものつながりがあり、地域が支えるという社会教育があります。両面でこどもに接して、一緒に育んでいくということがやはり大事な視点だというように考えています。社会教育というのは大事なところだとこちらも考えていますので、ありがとうございます。
教育長	関連して、よろしいでしょうか。今、祭りの話を出していただきまして、教育委員会として1つは、減っていく人口を止めるというようなことはなかなか難しいけども、今ある祭り・文化をしっかりと残す。それは継承も含めて、記録として残すということは、1つの取り組みとしてやっています。ただ、記録として残すということは、もう行事として消えていくかもしれないというのがあって、市長もかねがね言われるように、祭りは、例えば「磯部の御神田」は、「旧磯部町の」ではなくて「志摩市の」御神田というような捉え方も必要だということで、今まで磯部小学校と磯部中学校だけが御神田の学習をしていたけれども、他所の学校がしてもいいのではないかと。まだそこまでの広がり無く、DVDを配ったりはしていますが、それも1つの今後の取り組みとして、他の地域の祭りについても「志摩の祭り」という認識が必要なのかなと思います。

	す。
教育委員	こどもたちをそうして育てていくのですが、絶対志摩から出さないというわけではなく、むしろ出して、外に行っても志摩に誇りを持っていれば、遠くに行ったら志摩のことは残っていると思うのです。ですので「可愛い子には旅をさせよ」という言葉があるように、どんどん出ていってもらってもいいと思います。ただ、志摩で育まれたものを本人が持っていれば、また戻ってきてくれるという人もあるかな、というように思うので、外に出ることを止めるということはないと思います。
教育委員	4つの基本方針のうち「誰もが大切にされる教育」の中で、「誰もが安心・安全に過ごせる環境」とは、もう少し詳しく伺いたいです。
事務局	ご質問の「安全・安心に過ごせる環境」というところなのですが、まず1点は、災害をはじめ、事故や犯罪などの危険から、人の命や身体が守られている環境というところを指します。具体的には、防災学習の徹底であったりとか、学校施設の安全対策ということはもちろんのこと、通学路の安全確保であったりとか、いじめへの組織的な対応など、あらゆる危険に対して未然に防ぐ取り組みなども行っています。もう1点は、一人ひとりの個性や多様性が尊重されて、誰もが自分らしく過ごせると感じられる居場所づくりの環境を整えるということもしています。いじめや排除などの侵害がなく、互いに信頼し助け合える仲間づくりとか、人とのつながりを深めることによって、学ぶ意欲や自己肯定感につながっていくというように、安全・安心に過ごせる環境というのは、こういった形で考えております。
教育委員	ありがとうございます。仲間づくりやこどもたち同士のつながりも大事な1つだと思うのですが、学校の小規模化が進む中で、こどもたちの人間関係も固定化してしまっていて、様々なストレスを感じているこどもたちがいて、小さい学校は小さい学校なりに悩みがあります。小さい学校でも大きい学校でも、それぞれに応じた対応が必要で、どこの学校でも、こどもたちが楽しく過ごせるような環境づくりを望みます。よろしくお願いします。
事務局	こどもたちが楽しく、というところも大事だと思いますし、こどもたちに応じた学習、環境は一人ひとり違うと思いますので、個々に対応で

教育委員	きるように柔軟な対応ができるような学校づくりは必要なことだと思います。ありがとうございます。 望むことなのですが、私は就学前教育の分野で、情緒を豊かにする教育に力を入れてきました。これから社会が目指していくウェルビーイングを目指す上では、自己実現を目指して獲得していくものは、これからの社会の中で大きく進展して進みやすい部分かと思うのですが、それと反して、これから忘れてはいけないものとか、利他の心とか、協同する心とか、基本的なルールとか、情緒や心の面にも同じ重きをおいて向上を目指していったほうがいいと思います。
市長	議長として議事を回している状況で、私からも発言させていただきますが、まさにこの「「しまらぶ」未来をつくる人づくり」というのは、この教育大綱の素案の部分で、なぜ見やすくさせていただいたか、というところからご説明できればと思います。 やはり志摩市の教育というのは、志摩市民の皆さんすべてが関わることであると思っています。まさに学校教育の議論もいただきましたし、社会教育の議論もいただきました。例えば、それぞれの地元でお隣に住む、例えばお年寄りとか、お父さんお母さんのご近所さんとかにも接することが、すべての教育につながってくるというようなことを感じているところです。そういうすべての側面がこの教育に関わる場所がありますので、市民の皆さんがより目につきやすい場所であるとか、手に取っていただければ、直接的に入ってくるような表現というものにしていくということが非常に大切であるということと、あとは何が目的なのかというものを明確にキャッチしていただけるような、そのようなものが大事だということで、今回こういった書き方をさせていただきました。議論いただいた中でも、これは市長部局の方でもお話していることですが、例えば、地域のこどもたちが就職活動して、今だいたい 18 歳から 20 歳の子が 1 番市から転出するのですが、この世代の子たちが、例えば極端なお話ですが「志摩市にはコンビニエンスストアが 1 件しかない」とか言いながら、自分のふるさとを、あまり良いところではないようにお話しするのではなくて、例えば、志摩市の学校給食では伊勢エビが出たり、サザエが出たり「すごいんだよ」って自慢ができるような教育が必要かなと思っています。もちろん転出していても志摩市を自分のふるさととして、誇りを持っているとか愛着があるとか、そういったこどもたちの成長というものが非常に大事だと思っていますし、そういっ

	た想いを持てるということは、適切な言葉ではないかもしれませんが、例えば都会へ出て、非常に厳しい生活を送るという選択肢を親元から離れてしたこどもたちが、気持ちの拠り所の1つとして、地域のことを想っていることが、拠り所の1つとしてなるのかな、ということも考えていますし、地域全体でそういったこどもたちというか、転出していった方々でも、いつでも受け入れられる体制があるということを、常に自分の心の底に持っているということが、非常に私は大事なのかなと思っていました。 そういった想いも込めて、地域として誇りを持てる場所であるということ、4つのキーワードで演出をしながら、未来をつくる人づくりということを進められればなと思っておりますので、本日ご発言をいただいた委員の皆さんの、まさにおっしゃった通りの部分であると思いますので、しっかりと我々もここからさらにブラッシュアップをしながら、皆さんのご意見もしっかりと受けて進められたらと思っていますので、引き続きよろしくお願いします。
市長	それでは、ご発言も出尽くしたようなので、この議題を終わりたいと思います。事項書のその他事項について、あらためて何か意見があれば、よろしくお願いいたします。
事務局	【事務局より事務連絡】
市長	ありがとうございます。それでは、以上で議事をすべて終了させていただきます。これをもちまして、議長の任を解かせていただきます。
事務局	ありがとうございました。以上をもちまして、令和7年度第1回志摩市総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。